



加 監 発 第 5 9 号
令和2年3月11日

加 須 市 長 大 橋 良 一 様
加 須 市 議 会 議 長 竹 内 政 雄 様
加 須 市 教 育 委 員 会 教 育 長 渡 邊 義 昭 様

加 須 市 監 査 委 員 秋 本 政 信

加 須 市 監 査 委 員 栗 原 肇

令和元年度定期監査の結果（学校監査）について（報告）

地方自治法第199条第4項の規定に基づく定期監査を執行したので、同条第9項の規定により、その結果を次のとおり報告します。

令和元年度学校監査結果

I 監査の対象

(小学校 6 校)

樋遣川小学校、志多見小学校、大越小学校

花崎北小学校、種足小学校、大利根東小学校

(中学校 2 校)

加須東中学校、加須平成中学校

II 監査の期間

令和 2 年 1 月 7 日～令和 2 年 3 月 9 日

III 監査の範囲及び基準日

令和元年度（1学期及び2学期）の学校経営の状況、施設状況等

IV 監査の方法

学校経営に係る事業の管理や学習環境等について、関係法令等を遵守し適正かつ効率的に行われ、さらに学校教育目標に向かって合理的に運営されているかについて監査を実施した。

実施に当たっては、必要な資料及び関係書類の提出を求め、監査委員が各学校を訪問し、関係職員からの説明を聴取するとともに、学校施設の現況を確認した。

V 監査の結果

学校経営に係る事業の管理等について、学校教育目標に対する効果や経営の効率性等に着眼し監査を行った。

その結果、学校経営状況や学習環境等については、改善点は一部あるものの、おおむね適正かつ効率的に運営されていることを確認した。

なお、本監査における学校の状況及び主な意見は次のとおりである。

1 総括的事項

学校経営に係る事業の管理については、各学校とも、加須市人づくり宣言をはじめ加須市人づくりプラン等を念頭に、学校規模、校風や児童・生徒、地域の実情等を把握された上で目指すべき学校像を定め、それらの実現に向けて各種取組事項を掲げた学校ブランドデザインを明確に定めていた。

その運営に当たっては、校長のリーダーシップの下、教職員間の情報の共有化が図られており、また、保護者や学校評議員をはじめ連携している地域の方々に対しても、共通理解を図りながら行われている。

なお、全体の学校運営状況及び個別的事項は、次のとおりである。

2 学校運営状況について

(1) 組織について

校長・教頭を中心とした教職員の役割分担が明確に定められ、それに基づいた業務が行われており、責任体制も確立されている。

また、日ごろから教職員間の情報の共有化が図られるなど組織体制の強化に取り組まれている。

教職員の年齢構成が若手（20代～30代前半）とベテラン（50代）が多い構成になってきており、相対的に中間の年齢層が少なくなっている。そのため、管理職を除いたベテランと若手を全ての学年で組み合わせた構成にできない状況の中、若手教職員の指導力向上について、学習規律の共通理解事項や授業の進め方の例示、教員研修や学習指導研究などへの参加、そして、学校独自の教職員による授業研究会等の開催、校長及び教頭による授業巡視・指導を行うなどに努められている。

なお、教育委員会で導入した、児童生徒名簿管理や出欠席管理を行う学籍管理機能、各種テスト結果の管理や通知表作成等を行う成績管理機能等を備えた「校務支援システム」を活用して、今後もより効率的な組織運営を実践されたい。

(2) 学力の現状とその向上対策について

各学校において、授業前の基礎学力習得時間の設定、家庭学習時間の設定など様々な取組みが行われており、基礎学力の定着及び家庭学習の習慣化について成果を挙げている。また、少人数指導やティーム・ティーチングなどきめ細やかな指導に取り組まれている。

なお、新たに教科となった「特別の教科 道徳」について、それぞれの学校で教員研修を行いながら実施するなど、新たな学習指導要領に則した教育活動も行われている。来年度から実施される英語の授業への対応等のため、授業時間増に向けた日課表の変更を予定している。

引き続き、一人ひとりの学力の向上に努めるとともに、「分かる授業」「楽しい授業」を実践し、児童・生徒の自ら考え自ら学ぶ力の育成に尽力されたい。

(3) いじめ・長期欠席者の状況及び対策について

いじめについては、いずれの学校においても、児童・生徒及び家庭への定期的なアンケート調査、相談体制の整備、予防対策の実施等をしている。

今回の監査において、ほとんどの学校でいじめの認知がされていたが、発生時の迅速な対応等により、早期発見や早期解決が図られている。

児童・生徒へのスマートフォンやSNSの普及により、目に見えない形でのいじめが進行しているおそれがあるので、細心の注意を払われたい。

引き続き、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、家庭や関係機関等と連携し各学校の実情に応じた実効性ある取組みを展開されたい。

また、長期欠席者については、積極的な家庭訪問や連絡、適応指導教室「学習室ピア」等と連携して適切に対応されている。

(4) 地域との連携について

①学校評議員制度について

学校評議員は、自治会をはじめとする地域の関係団体等の代表者で組織されており、年3回程度会議が開催されている。

その会議では、学校の経営状況や地域との交流状況などの説明、授業等の参観なども行われている。

これらを通じて、評議員から寄せられた様々な意見や要望が、学校経営に生かされている。

②学校応援団※について

保護者・地域住民がボランティアとして組織する「学校応援団」は、学習活動や安全確保、環境整備、クラブ活動の指導など様々な場面で学校との連携が図られている。

しかし、学校ごとにその人数に差が見られ、今回の監査において訪問した学校の中で、一番多い学校は190人であったが、一番少ない学校は29人であった。

学校応援団等の高齢化がみられることから、引き続き新たな人材の発掘について尽力されたい。

※学校応援団：学校における学習活動、安心・安全確保、環境整備などについてボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織のことで、平成17年度から埼玉県教育委員会が取り組み始め、平成28年度には埼玉県内全ての小・中学校で学校応援団が設置されている。

③地域の体育祭との連携について

志多見小学校と大越小学校では地域の運動会と学校の運動会を合同で開催するなど、地域の状況に合わせた活動が行われている。

(5) 災害時の対応及び防災対策について

災害別の危機管理マニュアルを整備し、様々な災害や不審者を想定した避難訓練が実施されている。特に、地域の特性にあった避難訓練や防災学習など、学校独自の工夫ある災害対策も行われている。今後も、災害時等に児童・生徒の命を守るため、継続的に工夫のある取組みを実践されたい。

また、台風19号による避難指示の発令により明らかになった避難所運営の問題点等について市と情報共有を行いながら、必要な物資の確保や施設の改修等について市と連携を図って進められたい。

(6) 施設及び備品の管理について

学校施設（遊具や運動用具等も含む。）の安全管理については、安全点検表により定期的な点検が行われているとともに、危険箇所や破損等が発見された場合には、速やかに使用の中止、修繕等が行われている。

なお、一部の学校においては、雨漏りをしている箇所が見受けられたので、教育委員会と協議をして適切な施設の維持管理に努められたい。

(7) 教職員の長時間勤務の現状と解消に向けた取組みについて

教職員の平均在校時間については、小学校で約10時間、中学校では部活動の指導もあり約12時間と長くなる傾向が見られた。また、年度当初は新年度の準備作業等のため、特に主幹教諭や教頭の在校時間が長くなる傾向が見受けられた。

各種調査や報告、行事やイベントなどにより時間を取られている状況もあることから、児童・生徒への教育・指導などの本来業務が優先して行えるよう、関係機関が一体となり、これらの改善を進めていく必要がある。

なお、今回訪問した全ての学校で、パソコンとICカードを利用した教職員の在校時間管理を行っていた。

今後も適切に在校時間の管理を行うとともに、教職員の長時間勤務の改善に向け取り組まれたい。

(8) その他学校経営において参考となる事項について

大越小学校では、令和3年度から複式学級の設置の可能性が出てきている。児童の学習環境に大きな変化があると思われるので、その導入については関係者の意見等を聴取しながら、慎重に検討をされたい。

また、資源回収に取り組んでいる学校では、その収益金が学校運営等に大いに活用されている状況があった。

地域の実情や学校の歴史等を踏まえつつ、資源回収を未導入の学校ではその導入について検討されたい。

3 各学校の個別的事項について

樋遣川小学校 児童数134人（学級数6学級+特別支援学級数1学級）

- (1) 今年度の重点事項として「確かな学力づくりに努める」「安全な生活と健康な体づくりに努める」「豊かな人間性の育成に努める」を掲げ、児童の基礎的な能力の向上を図る様々な取組みが行われている。
- (2) 若い先生が多くなっていることから、授業の進め方やノートの書き方など全校で統一するなど、経験年数によらない授業に取り組まれている。また、自主学習の結果を校長先生に報告し表彰することによって児童の学習意欲を高める取り組みもしている。
- (3) ふれあい推進長を中心に175人の学校応援団が組織され、登下校時の見守りの他、ひまわり・そば・サツマイモ・稲の栽培と収穫など、児童にとって有意義な体験活動が行われている。
- (4) プールの更衣室の出入口の扉がきちんと閉まらないなど、老朽化に伴う不具合も見られる。また、プール周辺の除草が行われず放置されている。さらに、プール脇にある慰霊碑周辺の土留めの石が傾き危険な状態になっていることから、児童たちへの安全・衛生の確保を最優先に教育委員会や関係者との調整を行い、早急かつ適切に対処されたい。
- (5) 教職員の長時間勤務の現状について、昨年度の約11時間であったが、今年度からICカードの導入による退勤時間の一層の意識付けが図られたことから約1時間短くなっている。今後も教職員への声掛け等による意識改革を行いながら、長時間勤務の縮減に取り組まされたい。

志多見小学校 児童数120人（学級数6学級+特別支援学級数1学級）

- (1) 全校統一の学習規律を整えて、話を最後まで聞く・読書指導の充実などにより、児童は落ち着いて学習をしている。また、高学年では一部教科担任制を実施するなど、指導力の向上とともに児童の学習向上が図られている。
- (2) いじめ防止対策については、毎月アンケートを行いながら、学校生活や人間関係への不安を抱えている児童の早期発見や問題の未然防止に努めている。また、2日連続で欠席となった児童には必ず連絡を取ることで、児童の状況を確認するなど細やかな対応を行っている。
- (3) ふれあい推進長を中心に59人の学校応援団が組織され、年間を通して環境・安全・学習指導で児童との交流が深まっている。また、運動会や文化祭を地域と合同で行うなど地域との交流が盛んに行われている。
- (4) 教職員の長時間勤務の状況について、昨年度の平均在校時間は約11時間30分であったが、今年度からICカードを導入したことにより出退勤時間を意識するようになったことから約30分短くなっている。
今後も平均在校時間の長い教職員への声掛けを行うなど、長時間勤務の縮減に取り組まされたい。

(5) 台風19号の避難指示の際、深夜に約100人の避難者を受け入れた。

大越小学校 児童数69人（学級数6学級+特別支援学級数1学級）

- (1) 学校教育目標の「夢をもち 心豊かに たくましく」(1)自ら学ぶ子 (2)思いやりのある子 (3)じょうぶな子を掲げ、校訓である「三健五気の教育」とともに様々な取り組みを行っている。
- (2) 学力検査の結果を分析して指導法を研究するとともに、一人一研究授業の実施をするなど、授業力の向上等に取り組み、児童の学力の伸びにつながっている。
- (3) いじめ認知件数は7件あったが、早期の発見と対応を行うことにより解消をしている。今後も普段の学校生活の状況や、「いじめチェックシート」等を活用して、本人や保護者から児童の状況を把握するなど、きめ細やかな対応に努められたい。
- (4) ふれあい推進長を中心に約40人の学校応援団が組織され、登下校の見守りや体験活動の学習支援等を推進している。地域の方とのふれあいを通して、児童たちのコミュニケーション能力の育成も図られている。
また、9年前から運動会を地域と合同で行うなど地域との交流が盛んにおこなわれている。
- (5) 施設の老朽化がみられるため、計画的な修繕や適切な施設管理に努められたい。特に、体育館の屋根の錆が進行していることから、補修や塗装など必要な修繕等を教育委員会と連携を図りながら進められたい。
- (6) 教職員の長時間勤務の現状について、昨年度の平均在校時間が約11時間30分であったが、今年度からICカードを導入したことにより、在校時間の確認と意識化が図られたこともあり約2時間短くなっている。今後も会議データの共有化を図るなど、職員会議や職員打合せ時間の効率化に努められたい。
- (7) 令和2年度の新入学予定児童が7人であり、令和3年度から複式学級の設置の可能性が出てきている。児童の学習環境に大きな変化があると思われるので、その導入については関係者の意見等を聴取しながら、慎重に検討をされたい。

花崎北小学校 児童数319人（学級数12学級+特別支援学級数4学級）

- (1) 学習規律共通理解事項を作成することにより、全学級で規律の指導を共通化して行っている。また、授業の流れや指導上の留意点をまとめた「花北小算教授業スタンダード」を作成し、若い教員へ授業ノウハウを提供することで、指導力の向上を図っている。
- (2) 学力向上への取組として、学習のやくそくや家庭学習の手引きを作成して家庭への啓発を行いながら、学習習慣の定着を図っている。
- (3) 今年度の長期欠席者が9人となっている。家庭と協力して状況の確認を行うとともに、加須市教育センターや熊谷児童相談所、医療機関等と連携を図りながら、家庭環境や児童に応じた対応を心掛け、長期欠席者の解消に努められたい。
- (4) 学校応援団は155人で構成され、毎日の登下校の安全見守り活動や朝の読み聞か

せ等を行っている。学校応援団の高齢化も進んでいることから、新たな人材の発掘に努められたい。

- (5) 教職員の長時間勤務の現状について、今年度の平均在校時間が約10時間30分となっている。今年度から教職員の出勤管理にICカードを導入したことにより、月集計結果に加えて週集計結果も活用できることから、随時声掛けをすることによる職員の意識改革を行い、長時間勤務の縮減に向け取り組まれたい。

種足小学校 児童数161人（学級数6学級+特別支援学級数2学級）

- (1) 研修課題として「生きてはたらく力」を伸ばす国語教育の創造を掲げ、実生活や他教科でも必要となる読解力やコミュニケーション力の基礎となる国語力の向上を目指した様々な取り組みが行われている。

また、東日本大震災に学ぶ防災教育として、双葉北小学校・双葉南小学校との交流を行っている。毎年行っているテレビ電話での交流に加え、修学旅行の際にいわき市に行き交流を深めている。さらに今年度は双葉町の小学生の修学旅行が東京方面であったことから、種足小学校に寄り交流をするなどの取り組みを行っている。

- (2) 学力向上への取組として、全校で統一した指導に取り組むことで、児童が進級しても授業規律が共通のため、継続した指導が行われている。

また、司書教諭を中心として学校図書館だけでは不足しがちな図書資料を騎西図書館と連携してまとめて借りることで、授業の充実を図っている。

- (3) いじめ認知件数は2件あったが、早期の発見と対応を行うことにより解消をしている。

また、長期欠席者が4人となっている。各家庭と協力して状況の確認を行うとともに、スクールカウンセラーや加須市教育センター相談員、県立騎西特別支援学校コーディネーターなどの人材を活用しながら、家庭環境や児童に応じた対応を心掛け、長期欠席者の解消に努められたい。

- (4) 学校応援団は59人で構成され、毎日の登下校の安全見守り活動や学習支援等が行われている。学校がコミュニケーションの場となり、コミュニティ形成の機能も果たしている。

- (5) 災害時に避難場所にもなる体育館の北側に雨漏りがあることから、雨の侵入経路の特定をし、必要な修繕等を行うなど教育委員会と連携を図りながら対応を図られたい。

- (6) 教職員の長時間勤務の現状について、昨年度の平均在校時間が約11時間であったが、今年度は約1時間短くなっている。今後もICカードによる在校時間や退勤時刻の意識付けを図りながら、計画的に業務を進められるよう取り組みを進められたい。

- (7) 台風19号の避難指示に際して深夜に約250人から270人の避難者を受け入れた。体育館だけでは不足したため、教室も利用した。

また、一部の高齢者などは、体調面も考慮して保健室のベッドを利用した方もいた。

さらに、台風時の風雨により外トイレに行くことができず、館内に仮設トイレを設置して対応していた。

大和根東小学校 児童数219人（学級数7学級+特別支援学級数1学級）

(1) 学校経営方針を学校名が入った「(ひ)響き合い (が)関わり合い (し)信頼し合い 笑顔と質の高い学びがあふれる学校」としており、学校名の「ひがし」をキーワードに様々な教育活動に取り組まれている。

また、学校の取り組みやイベント等について、マスコミをはじめとする外部へ校長が積極的に情報発信を行っている。

(2) 学力向上について、算数の活用力について重点を置いた取り組みとして、校内の様々な場所に単位の表示や問題プリントが掲示されており、楽しみながら問題にチャレンジできる環境を整えている。

(3) いじめ防止対策として、いじめゼロなかよし集会を開催し、児童の心にいじめはいけない・許さないという思いを根付かせている。

(4) 学校応援団は190人で組織され、手厚い登下校の見守りや学習ボランティア活動等が行われている。また、絆参観としておじいさんおばあさんの参観を行っている。

(5) 教職員の長時間勤務の現状について、平均在校時間は約10時間であった。今年度からICカードを導入したことにより、在校時間に対する意識の変化が見られ始めている。今後も個人記録表や退勤目安時間表の活用、職員会議での意識改革を推進するなど取り組みを進められたい。

(6) 台風19号の際には、学校に避難してきた方もいた。大和根東小学校は避難指示区域内のため騎西方面に避難するよう案内をしたが、自分で移動できない高齢者などはバスが来るまで校舎の4階で待機をしてもらった。

大和根地域への避難指示の伝達に、学校からのメール連絡網も活用して連絡を行った。

なお、体育館に雨漏りがあるが、雨水の侵入経路が調査によっても特定できない状況となっている。

加須東中学校 児童数356人（学級数11学級+特別支援学級数2学級）

(1) 水深小学校の生徒増から、市内で3番目に大きな中学校となっているが、平成中学校分離前の教室もあることから、余裕のある教室配置となっている。

(2) 学力向上について、校内研修を通して教師の授業力の向上を目指し、特に授業終末での振り返りを充実させ、生徒に「何を学んだのか」「何ができるようになったのか」を意識させている。

(3) いじめ認知件数は2件、長期欠席者は17人となっている。長期欠席者には病気等により30日以上休んだ場合も含まれているが、小学校の時から長期欠席の傾向のある割合が多くなっている。家庭との密な連絡と家庭訪問の実施や学習室「ぴあ」、不登校の子どもたちを集めて学習の場を提供している松実学園と連携するなどの対応を行っている。今後も家庭家庭環境や生徒に応じた対応を心掛け、長期欠席者の解消に努められたい。

- (4) 約30人の学校応援団による夏休み期間中の校庭まわりの環境整備や学校公開日(ビレッジデー)における協力などの連携が図られている。高齢化等による学校応援団の減少も見られることから、学校応援団の若返りと団員の確保に努められたい。
- (5) 数学備品の図形実験実習器具及び理科備品の標本について充足率が20%以下と低い状況となっている。関係機関と調整し、授業に支障がないよう計画的かつ適切な購入に努められたい。
- (6) 教職員の長時間勤務の現状について、平均在校時間が約10時間30分であった。中学校では部活動の対応などもあり、在校時間が長くなる傾向にあるが、教職員への声掛けや、土・日の部活動について、部活動ガイドラインに沿って休業日を取るなど、長時間勤務の縮減に取り組まれたい。
- (7) 体育館内に雨漏りが発生している。体育館の屋上にプールが設置されていることもあり、その原因調査を引き続き進められたい。また、1階の体育館から屋上のプールへつながる屋内移動階段踊り場にも雨水が侵入しているため、調査の上早急に対応されたい。

加須平成中学校 児童数290人(学級数8学級+特別支援学級数2学級)

- (1) 教科教室方式の学校デザインとなっており、教科による教室の移動や職員室を学習センターとする特徴ある方式を取り入れている。今後もこれらの特徴を生かした学校運営に努められたい。
- (2) 学力向上について、数学でティーム・ティーチングを実施することで、数学の学力の向上が見られた。また、学習環境や人間関係の醸成が学力向上に好影響を及ぼす結果が見られたことから、生徒が決めた「授業5原則」や教職員の「学習指導5原則」を実施しながら、生徒主体の学校づくりを推進されたい。
- ※授業5原則(①チャイムで号令、②元気なあいさつ、③きちんとした態度、④積極的な参加、⑤事前に準備・きれいに片付け)
- ※学習指導5原則(①授業規律の徹底、②学習課題の明示、③導入の工夫、④学び合い・教え合いの場面設定、⑤振り返りとまとめの時間の確保)
- なお、「無言清掃」や「あいさつ先制口撃」など特色ある活動が実践されている。
- (3) いじめ認知件数は2件、長期欠席者は10人となっている。長期欠席者には怪我や病気等により30日以上休んだ場合も含まれているが、地道な家庭訪問を行うなど各家庭との連携を図るとともに、スクールカウンセラーやさわやか相談員の有効活用を図るなどの対応を行っている。今後も家庭環境や生徒に応じた対応を心掛け、長期欠席者の解消に努められたい。
- (4) 約45人の学校応援団により、樹木の剪定等の環境整備や夏季校外巡回活動、部活動の指導等の活動が行われている。今後も地域との連携を図りながら人材の確保に努められたい。
- (5) 教職員の長時間勤務の現状について、平均在校時間が約13時間30分と長時間に及んでいる。中学校では部活動の対応などもあり、在校時間が長くなる傾向にあるが、

教職員への声掛けを行うとともに、勤務時間の意識付け等を行い、効率よく仕事に取り組む環境を整えながら、長時間勤務の縮減に取り組まれない。